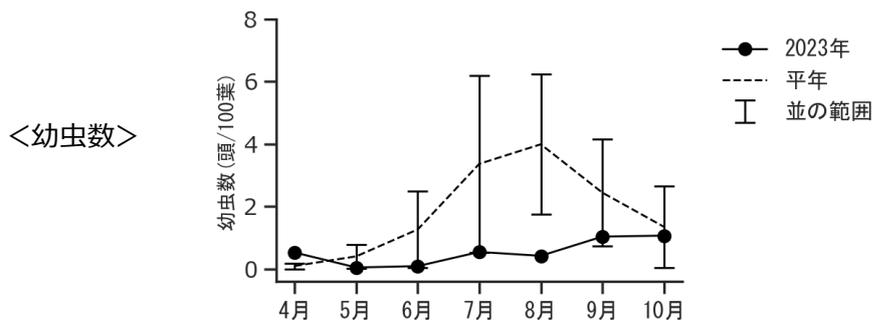
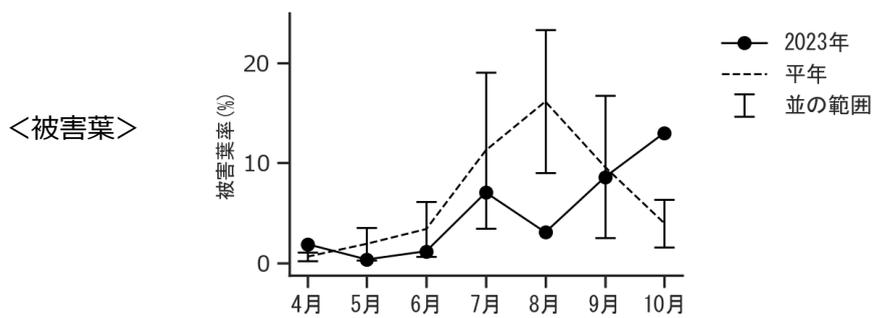


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
		11 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率100% (平年 : 85.5%)

防除のポイント

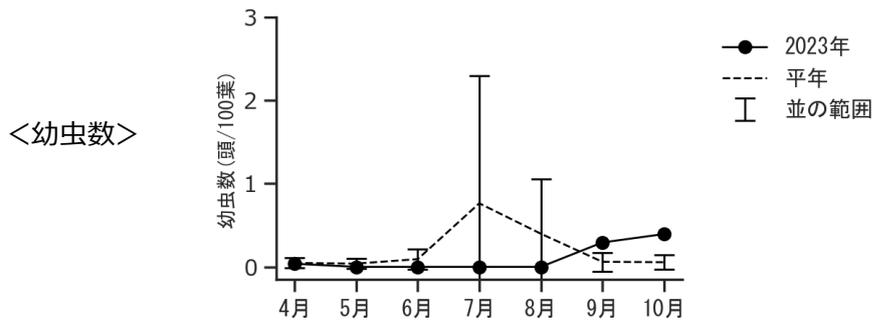
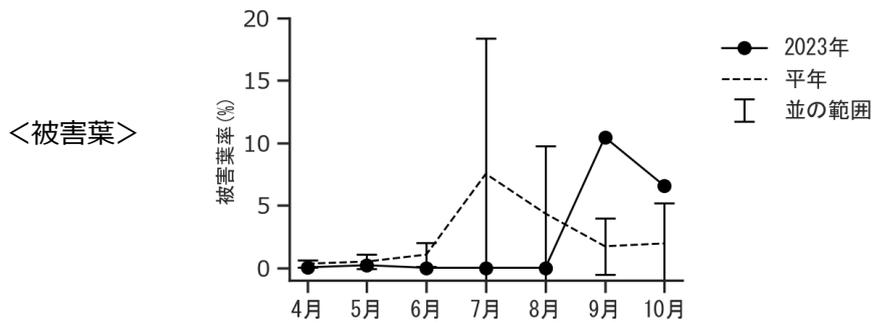
- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	ナカジロシタバ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 36.2%)

防除のポイント

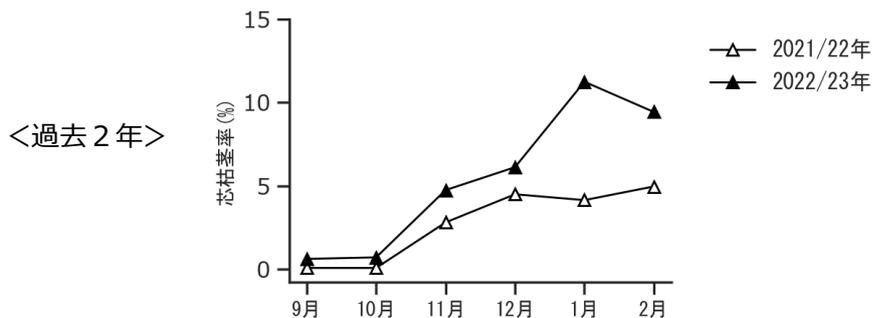
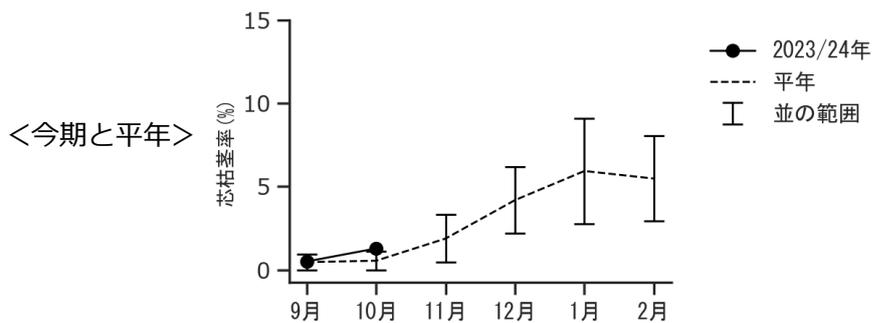
- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ
- ・発生ほ場率43.8% (平年：35.4%)

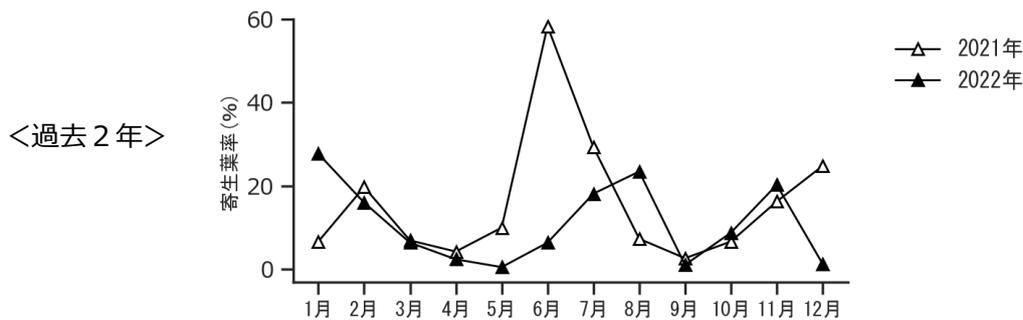
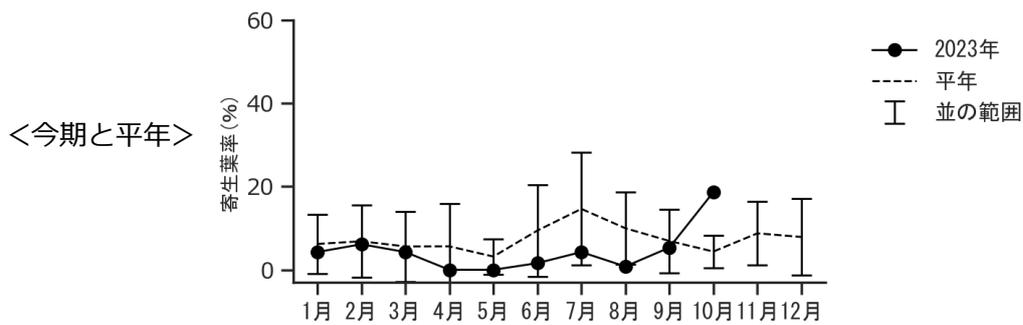
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	多		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：40.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

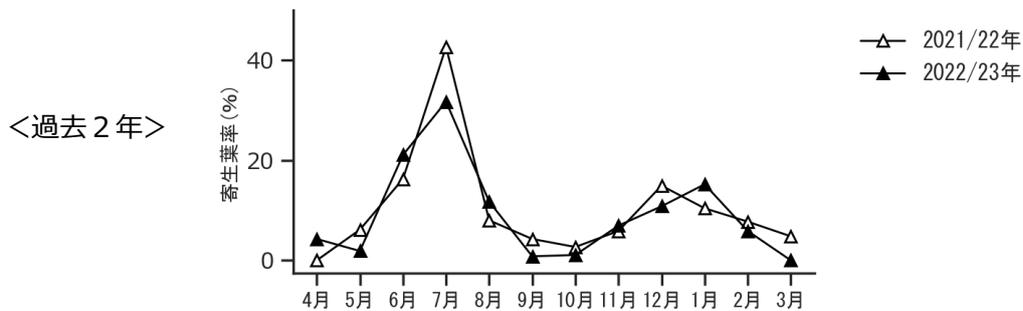
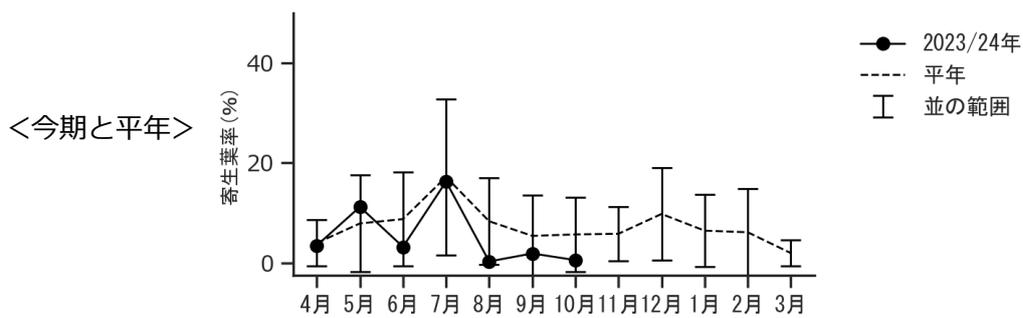
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	



ミカンハダニ

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：37.0%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

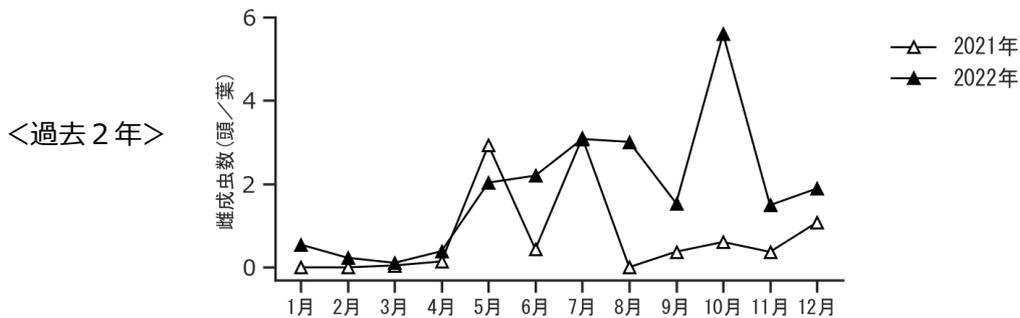
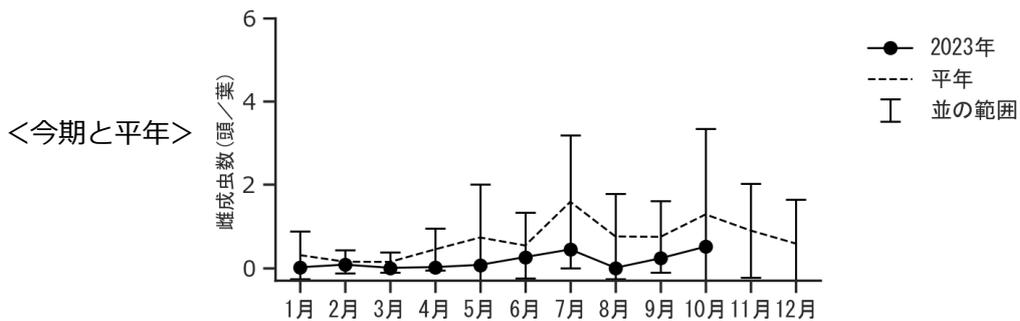


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	↓		
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率50.0% (平年：59.2%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

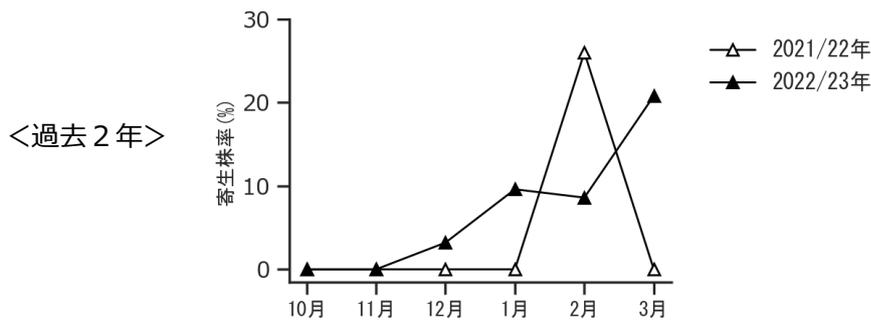
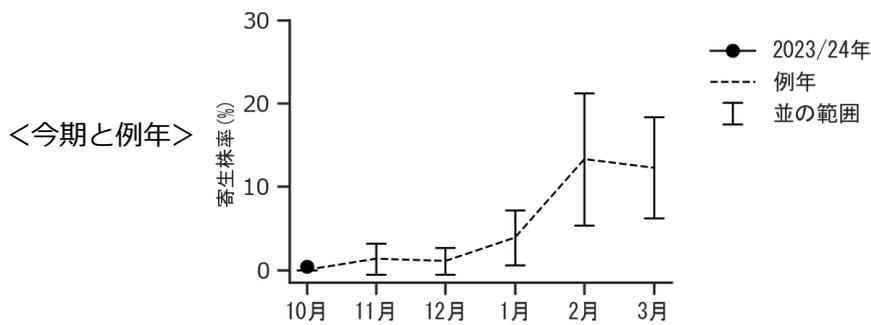


マンゴーツメハダニ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	10 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率20.0% (例年：0%) 一部ほ場で発生

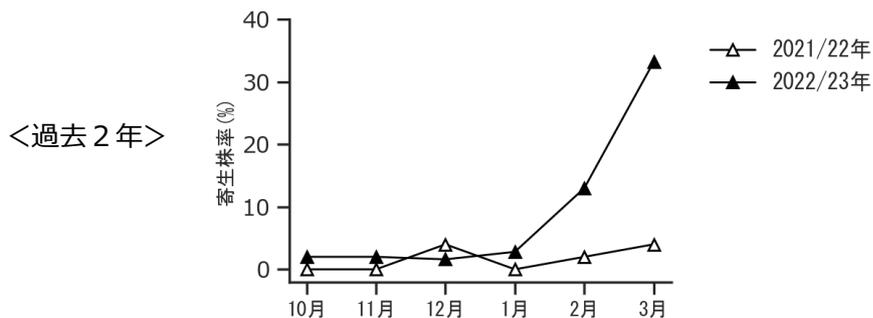
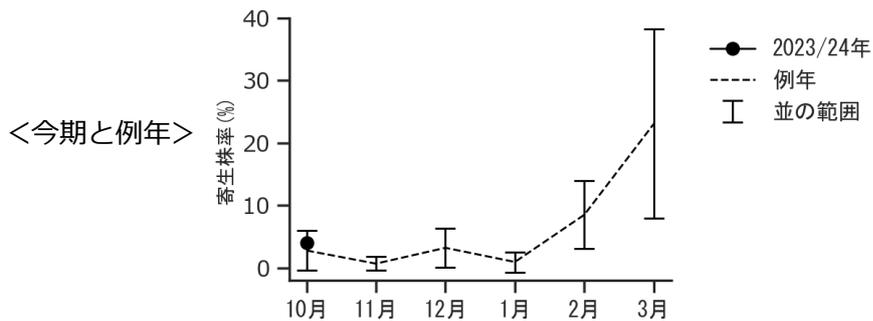
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	10 月の発生量 (例年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率80.0% (例年：23.1%)

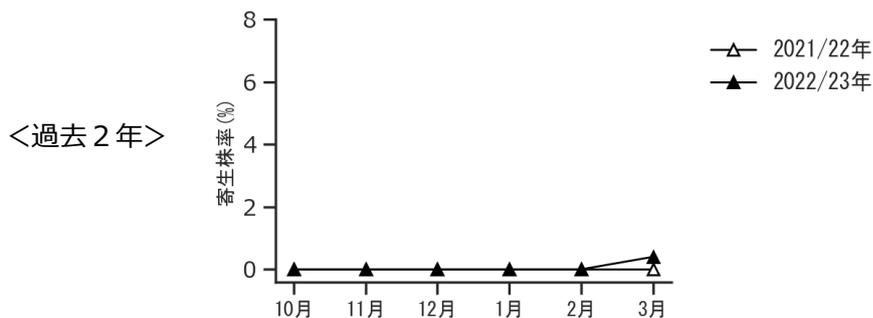
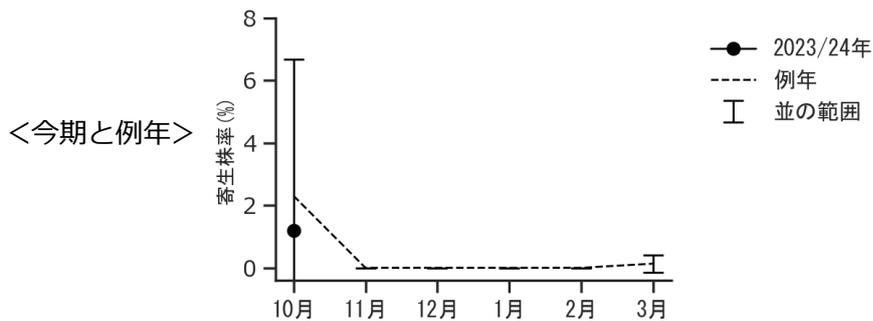
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハスモンヨトウ		
調査結果	10 月の発生量 (例年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

寄生株率の推移



・発生ほ場率40.0% (例年 : 7.7%)

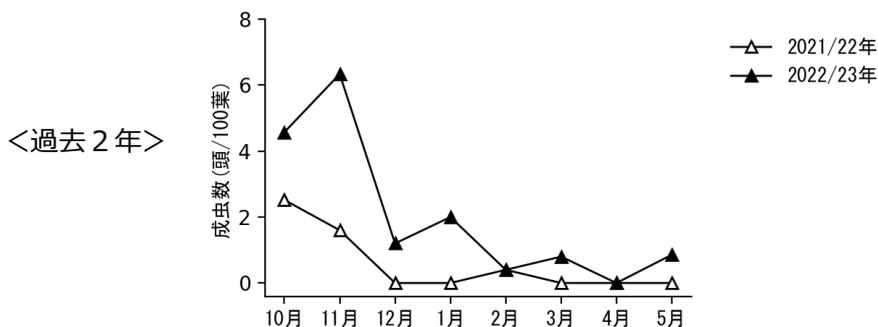
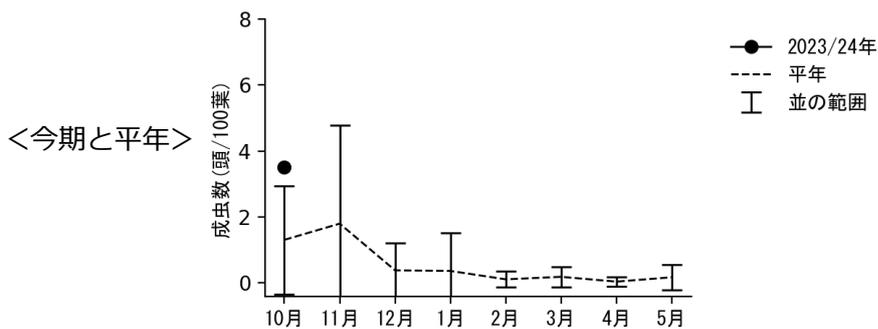
防除のポイント

- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		 <p>成虫</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年：23.9%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

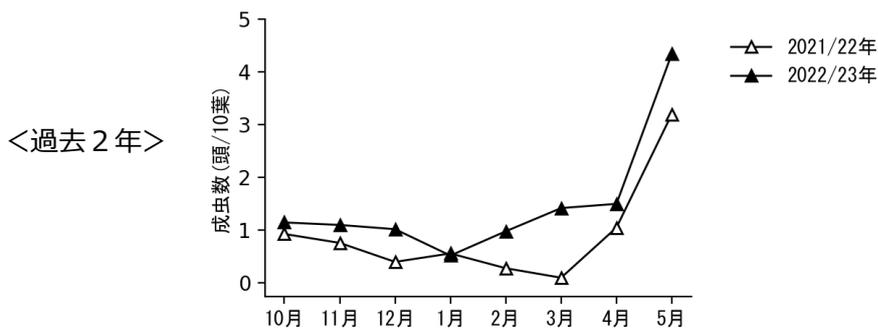
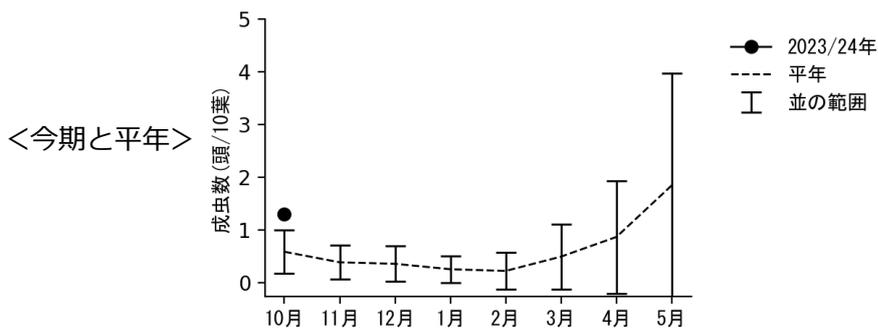


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	② タバココナジラミ		 <p style="text-align: right;">成虫</p>		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報	10 月からの増減傾向	↓			
	11 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)			

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 63.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

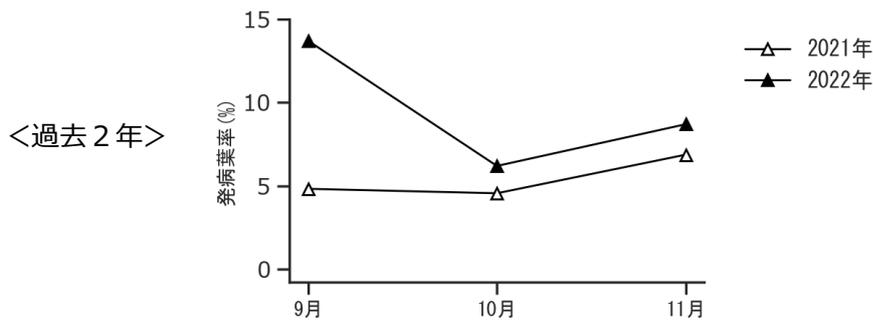
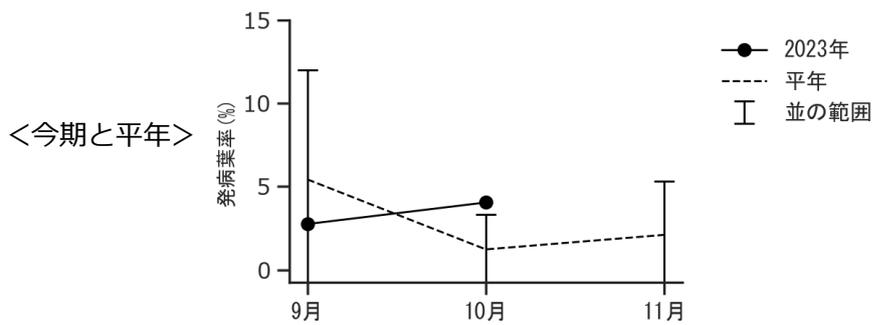


幼虫

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率66.7%（平年：21.1%）

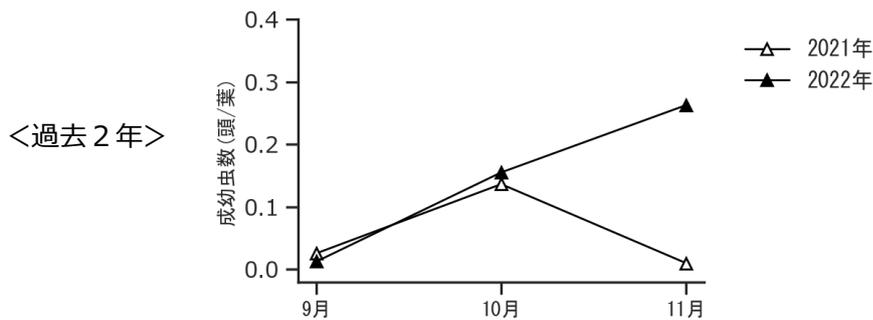
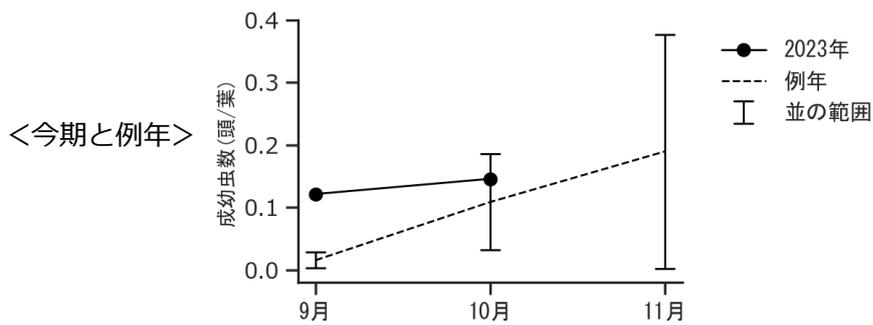
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	10 月の発生量 (例年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100% (例年：91.7%)

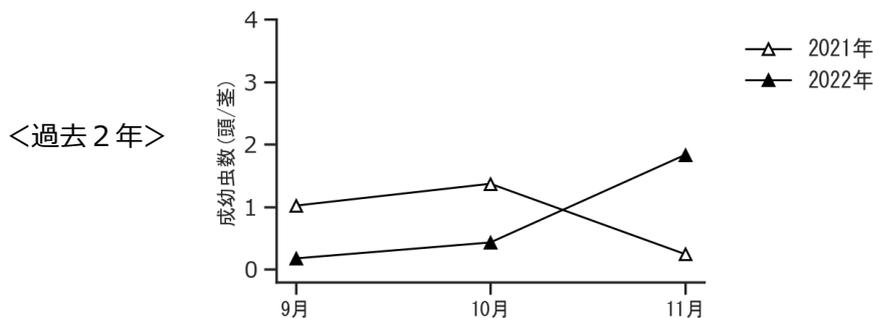
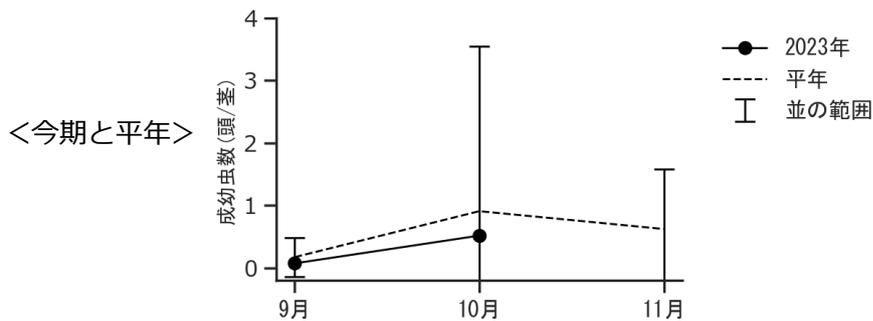
防除のポイント

- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：台湾ヒゲナガアブラムシ
- ・発生ほ場率88.9% (平年：40.7%)

防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草の除去する。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

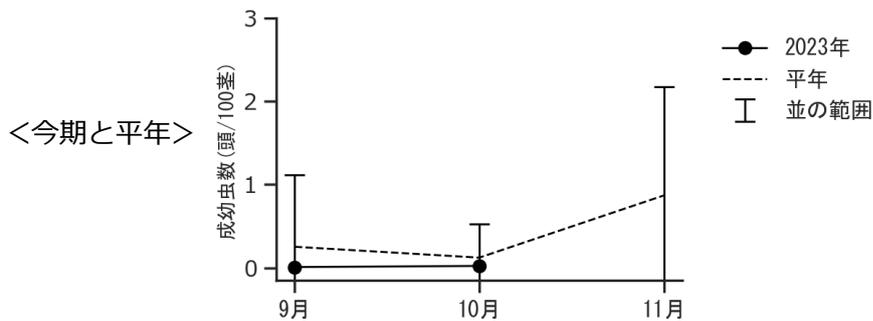


寄生の様子

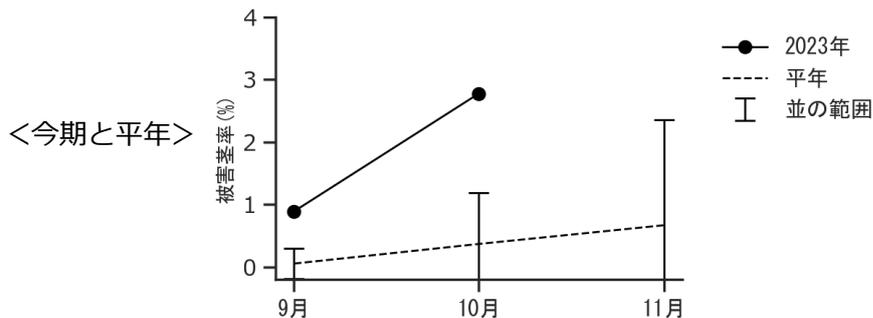
作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	④ カスミカメ類			
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



・発生ほ場率11.1%（平年：2.4%）

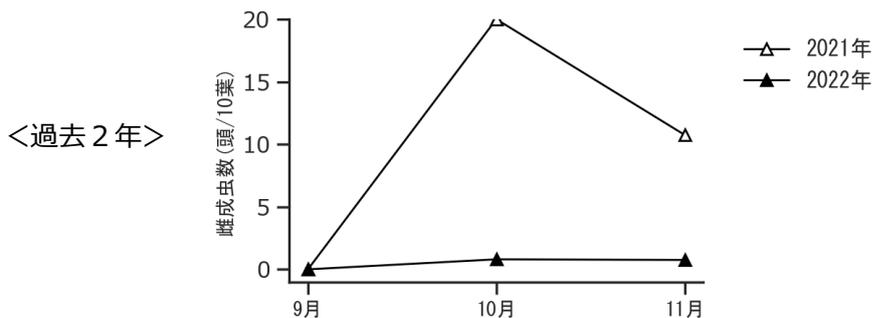
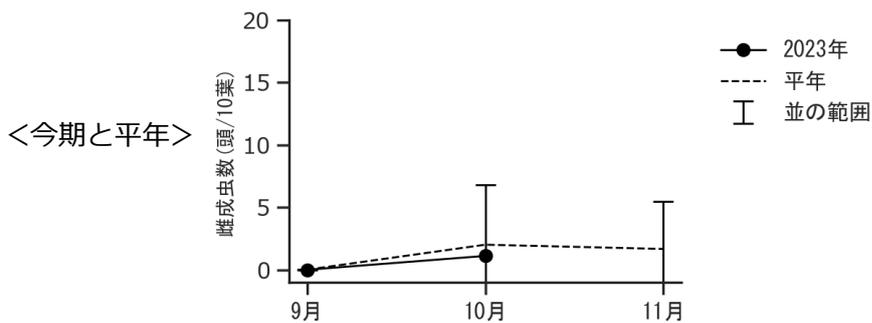
防除のポイント

- ・ほ場周辺にキク科雑草の花等があると発生源になるので除去する。
- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並		
予報	10 月からの増減傾向	↓		
	11 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）		

調査結果

雌成虫数の推移



・発生ほ場率33.3%（平年：13.2%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。